

令和元年度 第2回 気仙沼地区教科用図書採択協議会 議事録

○日 時 令和元年7月31日(水)
午後0時45分～午後5時50分(午後1時50分から午後2時20分まで休憩)

○場 所 気仙沼中央公民館 第3会議室

○出席委員 委員(会長) 小山 淳 気仙沼市教育委員会教育長
委員(副会長) 齊藤 明 南三陸町教育委員会教育長
委員(監事) 阿部 俊光 南三陸町教育委員会教育総務課長
委員 齋藤 博厚 気仙沼市教育委員会学校教育課長

欠席委員なし

○説明員(代表専門委員)

内海 千秋(月立小学校教諭):家庭
遠藤 弥生(新城小学校校長):学校教育法附則第9条の規定による教科用図書
小山 千賀子(名足小学校校長):国語・書写
三浦 博之(入谷小学校教頭):理科
山口 千花(階上小学校主幹教諭):生活
工藤 吉則(志津川小学校校長):社会・地図
大和 美香(小泉小学校教諭):音楽
小野寺 夏江(伊里前小学校教頭):図画工作
熊谷 亨(九条小学校教諭):算数
山内 弘一(名足小学校主幹教諭):保健・体育
加藤 修子(中井小学校教頭) 英語
小松 幸恵(大谷小学校教頭) 特別の教科 道徳

○出席職員(事務局)

事務局員 小野寺 恵美子 気仙沼市教育委員会学校教育課主幹兼学事係長

1 開 会(午後0時45分開会)(進行:事務局員)

2 挨拶(小山会長)

本日は、長丁場になると思います。今年度はボリューム的にもスケジュール的にも厳しかった中で審議会、専門委員会と支障なく進められたのは、この地区の先生方の底力があってのことです。今日は代表の専門委員からの話を踏まえた上で、採択まで持っていくための会ですのでどうぞよろしく願いいたします。

3 会議録署名委員の指名

南三陸町教育委員会 齊藤委員にお願いする。

4 協議 (議長：小山会長)

(1) 報告第1号 令和2年度使用教科用図書に係る選定審議会答申について(説明 小野寺)

- 答申書を読み上げて報告
- 質疑なし
- 承認

(2) 報告第2号 令和2年度使用教科用図書採択調査研究資料について(説明 斎藤)

- 本日の日程と時程について説明
- 令和2年度使用教科用図書採択調査研究資料の調査研究について各代表専門委員から別紙調査研究資料のとおり説明。

- 質疑

【家庭】

- ・小山委員 どちらの教科書も吟味されており、組織配列の部分ではスリーステップでの学びとなっているように捉えられる。基本的には同じような大單元ごとのつくりになっていると理解してよいか。
- ・内海代表専門委員 はい。
- ・小山委員 その点では差がない。資料から読み取ると、開隆堂はフォトランゲージと製作例、東京書籍は5、6年の内容項目の配列を、意識的に同じような配列にしていると読み取った。実際に指導する上で、どのように生かされるのか。
- ・内海代表専門委員 開隆堂のフォトランゲージは主に社会科などで多く、始めに「この写真から何が見えますか」といったような学習課題を見つける際に、子供たちのそれぞれの生活経験の差異をつかむことができ、学習に生かすことができる。先ほど話した「実際にやってみよう」の後に生活に生かすというところで、豊富な実践例等が載っているので、例えば夏休みに1学期に学習した縫い物を生かして、「今度はもう少しここを工夫して作ってみよう」、「家庭で使えるものを作りたい」というように発展させることができると感じている。東京書籍は、初任層や男性の先生が家庭科を指導する際に具体例が多く使用しやすいと感じた。例えば5年生と6年生の教室で同じ時期にミシンを使ったり作品を掲示したり、調理実習に向けて5年生と6年生の担任と一緒に調理器具について注意点を確認したり、5・6年生の作品を並べることによって次へのステップが見えたりというところで、複式だけではなく、人数が少なくなってきた学校現場にも適用できると思った。
- ・斎藤委員 開隆堂の学習と指導に関することの中に、中学校との関連が巻末に示されているとあるが、中学校との関連は新学習指導要領で特に大切にされている。この巻末に示されていることが学習の中で活用されやすくなっているか。
- ・内海代表専門委員 学習に生かすというよりは、まとめの段階で2年間やってきたことがどのように中学校につながるのかという見通しを持つのに役立つのではないか。
- ・斎藤委員 東京書籍の方が、学習指導に関することの中に、主体的・対話的で深い学びの

実践につながられると記載があるが、学び方については子供たちからするとやりやすい、学びにふさわしいと感じられるような内容だということか。

- ・内海代表専門委員 何よりゴールが見えやすい。東京書籍は、必ずめあてがあって振り返りがあるという構成になっている。どの題材においても「これを目指して学習するんだ」、「今回のねらいはこうだな」ということを念頭に置いて学習を進め、実際にどうだったのかを振り返ることができる。全ての題材のタイトルの下に必ずめあてがあるので、字数は開隆堂より少し多くはなってしまうが、何を学ぶのかを捉えやすい。家庭科は5、6年生にしかない教科なので、初任層やあまり家庭科を指導したことがない先生でも見通しを持ちながら教科書をうまく使用して指導できる。子供たちにとっても自ら「こういうねらいなんだ」ということが分かりやすいと感じた。

【学校教育法附則第9条の規定による教科用図書】

- 小山委員 全ての図書が子供たちの意欲を引き出せるような工夫がされていると感じたが、よく分からない部分もある。「はっけんずかん どうぶつ改訂版」でたくさんの扉があるということだが、扉がある本は何種類も出ているのか。
- ・遠藤代表専門委員 「はっけんずかん どうぶつ改訂版」には、見開きの中に扉が七つほどあるページもある。その扉の中には、ジャングルの中の動物の様子も描かれているが、例えば寝ている動物が描かれている扉を開くと、その動物が起きている姿になったり、母が子供と一緒に何かをしている姿になったりする。それから、獲物を持ってきて食べようとしている動物が描かれている扉を開くと、そこには皆と一緒に食べている様子が描かれているなど、動きがある内容になっている。
- ・小山委員 そうすると、扉がたくさんあって動きがある内容になっているところがこの本の特徴と考えられる。それから、No. 16 外国語の部分だが、説明の中のARアプリに興味を感じるが、使えそうか。
- 遠藤代表専門委員 私ならばばらく四苦八苦すると思うが、一緒に働いたことのある中学校の先生は、その場ですぐにアプリを入れ、このようにして使えるというのを見せてくれたこともあるので、若い先生方は使いやすいのではと思う。
- ・小山委員 同じ本の中の保護者向けの注釈というのは、保護者も指導の参考にするということなのか。
- ・遠藤代表専門委員 これは一般図書なので、一般に売られている絵本と同じであり、学校で教材として使うというようなことは書かれていない。しかし、保護者向けに「この本を使うときにこんなことができますよ」「こんな遊び方ができますよ」というようなことが中に書かれている。
- ・小山委員 そのことも指導をする上で結構重要な要素か。
- ・遠藤代表専門委員 要素としては英語“辞典”なので、ただ見て遊ぶというわけではないが、これをどのように教材として扱うかということを考える際のヒントにはなる。
- ・斎藤委員 同じ本の「手づくりボックス しぜんで作しよう」と「うちでもこんな実験ができるんだ!」に関わることだが、安全面に対しても十分に授業等で活用できるように配慮されていると感じられたか。

- ・遠藤代表専門委員 「こういうところに気を付けてください」というような記載は特にない。例えば、「しぜんで工作しよう」では、自分たちで集めてきた木々で工作したり、自然の葉っぱで何かを作ったりという学習活動が示されているが、図画工作科の学習でも似たような内容を扱うことを考えれば、先生方で考える範囲の安全面としては大丈夫だと思う。ただし、「流木を集めに行きましょう」とか、「砂で何かを作りましょう」といったときには、別の安全面の配慮が必要になってくると思う。また、「うちでもこんな実験ができるんだ！」は、でんじろう先生の本なので、おもしろい実験がたくさん載っている。家庭にある物で実験できるので、それほど危ないというものはなかったと思う。

【国語・書写】

- ・齊藤委員 各社丁寧に分析されており、大変ありがたい。各社とも、新学習指導要領に基づき、それに則った形で、適切な教科書であるという判断をされ、ありがたい。「書写」だが、1・2年生に対しても、やはり「毛筆」から「硬筆」へという流れの中で、「とめ」「はね」「はらい」を意識するために、教科書の中に「水書シート」が加わっているということは、指導する上では取り組みやすいということか。
- ・小山代表専門委員 今までは、鉛筆とフェルトペンを使って指導してきたが、「はらい」で力を抜いていくということが、子供たちには意識できないところであった。水書用具を使うことで、だんだん細くするためには、ひじを持ち上げるとよいというような、書くための姿勢も、意識させやすい。鉛筆だとどうしても、止まっているのか、はらっているのか分かりづらく、意識しづらいところもあるので、目で見て分かりやすいこともよさだという話があった。
- ・小山委員 国語科、光村図書出版の「組織・配列に関して」の中に「国際的視野が育つ」という記載があるが、他社にはない特徴のように感じた。どういう配慮がされているのか。
- ・小山代表専門委員 内容として、国際理解に関わるようなものを取り上げている。あるいは、例えば「気仙沼市や南三陸町では分からない」というような地域差のあるものが混じり込んでいないということで、このような表記をさせていただいた。
- ・小山委員 もう一つ、むしろ書写にウエイトがあるのかもしれないが、国語科の教科書との関連が記載されているのが、東京書籍と光村図書出版だったと思うが、国語科の教科書と連動したほうが指導はしやすいのか。
- ・小山代表専門委員 国語科の教材文を、そのまま書写の教材文として扱うと、文章として子供たちは馴染みがあり、取り組みやすいというのはある。また、書写できれいに字を書く、書字を身に付けた後に、また国語科に戻って、国語のノートに書くということも例として、どちらについてもメリットがあると思う。
- ・齊藤委員 東京書籍の「国語」の「内容に関すること」で、「宮城県や被災地の復興に関わりのある教材」とあるが、東京書籍の他に「宮城県や被災地の復興に関わりのある教材」というのはなかったのか。
- ・小山代表専門委員 全てをこの視点で確認はしていないが、東京書籍については、震災の様子や震災後の様子などを取り上げていて、子供の気持ちに寄り添う、子供自身が復興を実感できるという意味で、東京書籍ではこういう表記をさせていただいた。

【理科】

- ・小山委員 まず実験観察の充実度については、どの教科書会社か。
- ・三浦代表専門委員 理科は身近な事象を取り上げて、それを具体的に実験や観察をして確かめるという流れで学習を進める。身近な事象から問題を見付けることを考えると、東京書籍か教育出版社がよかった。
- ・小山委員 生活に生かす工夫という観点ではどうか。
- ・三浦代表専門委員 身近な事象から実験や観察を行い、最後にまた生活に生かすという構成は6社とも共通していた。
- ・小山委員 組織と配列の部分で、「2社で季節的なずれ」という記載があったが、具体的には、また、どのように対応していたのか。
- ・三浦代表専門委員 多少のずれはあるが、現在利用している東京書籍では、今年は寒かったことから植物関係がずれていた。そのようなときは、後半にやろうとしていた単元をそれぞれ入れ替えたり、同時進行させたりするなどの工夫をしている。
- ・小山委員 記載があった教育出版と学校図書は、なぜ若干のずれがあったと感じたのか。
- ・三浦代表専門委員 時期的なものと、教材が東北地方にあっていないと感じた。
- ・齊藤委員 しっかりと6社の教科書を見て、調査資料を分かりやすくまとめていただいた。6社とも新学習指導要領に基づいたものになっていることは理解した。体裁的なところでA4判は、子供たちにとっても見やすく、学習しやすいというような印象を与えたか。
- ・三浦代表専門委員 他の教科書は細かい字が何か所かある。A4判で作っている教科書会社は、字が比較的大きく、適度な余白もあり見やすさを感じた。

【生活】

- ・阿部委員 幼稚園・保育所等々のつながりのスタートカリキュラムについては、各社とも意識して教科書を作っていることが分かった。それらの教科書の中で、東京書籍等の教科書が教員も指導しやすいという話があった。また、教員の経験年数なども配慮しながら、若手教員も指導しやすいような配慮がなされていることが分かった。さらには教科書が子供たちにも読みやすいように構成されていることも分かった。教員も指導しやすいと言っていたが、どういうところが特徴的なのか。
- ・山口代表専門委員 指導する側として教科書を見たときに、一目見て、その単元で何を指導したらいいのか分かるところが特徴的だと思う。生活科は、地域の実態で違ったり、活動の内容が変わったりするが、教科書を見ると、学習カードの例や様々な活動例がイラストや写真で示されており、さらに振り返りの場面も紙芝居や動作化などの方法が記載されているページも多くあり、初めて指導する教員でも見通しを持って指導ができると感じた。
- ・小山委員 指導者側から見れば東京書籍の教科書に特徴が見られるという話だったが、生活科であれば、子供の立場からするとわくわく感が大事なポイントだと思う。わくわく感に関してはどうか。
- ・山口代表専門委員 教育出版の教科書には、子供たちが一目見て分かること、理科や社会へのつながりがはっきり書かれてあることで、2年生の生活科の段階で理科や社会がどのよ

うな教科なのかに触れることができると感じた。また、板書例が提示されているので、子供も見通しを持って学習に取り組めると感じた。

- ・小山委員 東京書籍のわくわく感はどうか。
- ・山口代表専門委員 教科書の写真に載っている子供が上巻と下巻で同一人物になっており、自分たちが2年生になったときに、その子供たちの成長した姿を見ることができ、自分を投影できるという、わくわく感を感じた。

【社会・地図】

- ・齊藤委員 各社とも教科書については、やはり問題解決的な学習が取り上げられている。地図については、3年生からの使用になるが、使われ方についても各社配慮していることが分かった。社会科の学習の中で、特に特徴的なものに「事例地」がある。各社それぞれ挙げていると思うが、やはりこの管内、あるいはその管内に近いところが教材として取り上げられているということは、社会科を学習する中ではとても大切なことではないのかと思う。取り上げられている事例地についてどうか。
- ・工藤代表専門委員 特に本地区は東日本大震災の被災地ということで、防災教育に関しての事例地を取り上げるということはとても重要だと思う。そういう意味では、東京書籍で松島町や雄勝町が取り上げられ、6年生で気仙沼市が学習題材として取り上げている。地元気仙沼が取り上げられ、子供たちの興味・関心を高めるいろいろな工夫がされている。特に震災から8年が経ち、震災の記憶や経験のない子供たちが身近であったことを教科書で学べるということは、とても重要なことだと思う。東京書籍の地図帳には、あまり大きくはないが南三陸町のハザードマップが載っている。地図を利用しながら、地元でどのようなハザードマップを作成し、どのように工夫しているかということ具体的に学べるということは、効果的であると考えます。
- ・阿部委員 帝国書院の地図については、色覚特性を考慮した配色の工夫が見られるとあったが、具体的にどのような工夫になっているのか。
- ・工藤代表専門委員 色的にはそれほど目立たない色であるが見やすくなっている。特に以前は色覚検査を行っていたが、その障害に対する配慮ではないように感じた。具体的にこの言葉（「見やすく」）しか教科書に載っていなかったが、それ以上は調べなかった。見やすくなっているということではないかと、集まった私たちは共通理解をした。

【音楽】

- ・小山委員 技能面でのステップアップということが両方とも示されている。特に新学習指導要領で示されている基礎的な技能をいかに活用して応用的・発展的な技能を高めていくかが、一つのポイントになると思うが、その観点で言えばどちらの教科書がよいか。
- ・大和代表専門委員 正直言ってどちらも甲乙つけがたい。こちらを取ればこちらがというところがある。教育芸術社の教科書については、今まで使っていたということもあるが、指導者が、このように指導したいという思いを入れながら、授業を組み立てられるようになっていくと思う。教育出版の教科書には、学習過程が明確に記載されており、それを全て指導しなければいけないと考えると、負担を感じる教員もいると思う。どちらもよい面が

あると思うが、個人的には慣れている教育芸術社の方が使いやすい。最近では、若い先生が多くなってきているので、指導法が細かく書かれているのが教育出版の方だと思う。

- ・小山委員 教育芸術社の教科書の「学びの地図」が目をついた。それは指導をする上で有効なのか。
- ・大和代表専門委員 目次は、子供たちが視覚的に「この単元は楽器を使うんだな」、「この単元は歌なんだな」と分かるようにはっきり色分けされている。「学びの地図」は、マップをたどるように学習内容を確認できるようになっており、有効だと思った。
- ・小山委員 目次としてだけでなく、学習のつながりなどを示すようなマーク的なものだということが分かった。

【図画工作】

- ・齊藤委員 どちらも新学習指導要領やみやぎの教育等に合致した形で組み立てられていることが分かった。その中で、子供たちが使ったときに、使いやすさ、あるいは自分の作品を作っていくときにイメージを組み立てたり、意識したり、手順や技法等々について、自分で計画や見通しなどを立てていくが、子供たちが教科書を見た際に、2つの会社の中で、そのような活動等・技法等で作品を構想しやすいのはどちらの教科書か。
- ・小野寺代表専門委員 どちらの教科書会社についても、作品例を精選しており、甲乙つけ難いが、開隆堂の方が、各場所でどのようにすると作りやすいかということについて、写真や技法があったり、構想の段階でも、いろいろな作品例があったりするところが見やすい。子供にとって分かりやすく、取り組みやすい題材が多いのではないかと思う。
- ・小山委員 日本文教出版の組織・配列の観点の2つ目、観点別の評価を基に見取る内容と、個人内の評価を通して見取る内容の2段階を設定している部分に興味がある。これは特徴的であり見ないわけだが、指導と評価を一体的に行うときの有効性をどう感じるか。
- ・小野寺代表専門委員 より丁寧に表示はされていると思うが、開隆堂についても、めあてを3つ必ず挙げており、その題材で一番重点的なものはどれかというのは、しっかりと明示されているので、指導者が重点的に評価できるように、見取るようにできている。
- ・小山委員 そうすると、それほど特徴的なことではないと考えた方がよいか。
- ・小野寺代表専門委員 はい。
- ・小山委員 日本文教出版だけ特にというわけではないのか。
- ・小野寺代表専門委員 はい。
- ・小山委員 開隆堂の「みんなのギャラリー」「学びのギャラリー」は特色だというように資料を見たが、それでよいのか。
- ・小野寺代表専門委員 図画工作科の特徴として、いろいろな作品例を挙げないと、子供たちがイメージを広げられないので、どちらの教科書もコーナーを設けてはいるが、開隆堂の方がより細かく、作品や題材例が豊富で分かりやすい。伝統的な絵画・文化的な資料もインパクトのあるものが多い。

【算数】

- ・齊藤委員 共通して全ての教科書の資料等に「主体的・対話的で深い学び」とあり、それが

押さえられていて、新学習指導要領の中でいろいろな要素があると感じた。特色の一つ、例えば「プログラミング学習」、「プログラミング」という用語については、2社について明示されているのだが、それ以外はなかったのか。あるいは、取り上げるほど特徴的ではなかったのに取り上げなかったのか。それから「家庭学習」についても2社には書かれてあるが、その家庭学習に関わるようなことが、各教科書会社にあったのか。あるいは特徴として表れていないのか。

- ・熊谷代表専門委員 「プログラミング」と「家庭学習」との関連については、どの教科書会社も触れている。6社あるので、取り上げるべき会社と取り上げなくてもいいという会社、そのあたりで区別して、今回の発表とした。取り上げ方はそれぞれあるが、各社、抜かりなく触れているというような印象がある。
- ・小山委員 次期学習指導要領の特徴の一つとして問題解決型の学習展開が挙げられるが、東京書籍でしか示されていないというのは信じられないという印象である。もちろん多かれ少なかれ他社でもそのような扱いにはなっているのだと思うが、東京書籍がそれだけ特徴的だということか。
- ・熊谷代表専門委員 教科書を採択する上での4観点において研究した中で、個人の意見になるかもしれないが、東京書籍が一番バランスよく整えられているという印象を受けた。各社とも問題解決型の展開というのを示して、そのような構成にはなっているが、その中でも算数については、私はそのような印象である。
- ・小山委員 特徴付けるに値するだけの工夫がその観点で出されているということか。
- ・熊谷代表専門委員 そう感じた。
- ・小山委員 予備時間を特色として挙げているのが2社あったのだが、算数の指導において、予備時間があることは重要なのか。
- ・熊谷代表専門委員 習熟が必要な領域、単元内容があり、予備時間が各校のカリキュラムに合わせて確保できるようになっているというのは、親切だとは思う。これまで算数の指導をして、時数の確保の仕方などは、校内で相談してできていることであり、個人的には、そこまで親切でなくても、教育計画作り、年間指導計画作りは行っていける。
- ・小山委員 ないよりはあった方がいいが、その分はどこかで処理しているということが分かった。

【保健体育】

- ・小山委員 各社とも課題解決的な学習という展開構成になっているという最初の説明だったが、その観点での充実度を見た場合、特に目に留まった充実度の高い出版社はどこか。
- ・山内代表専門委員 一つは東京書籍、もう一つは学研である。東京書籍は、「課題」「調べたこと」「思ったこと」を書く欄が4ページあり、自分の考えをまとめて書く回数が多く、その点では、自分で後々振り返りをするときや、先生方も「子供の考え」「どう変わってきたのか」などを見る上でも有効だと思い、挙げた。学研については、本県で取り組んでいる「志教育」に関連するキャリアや職業についても考えられており、体験的な学習を通して実践と関連付けて学べるような配慮がなされていたので、二つを挙げた。
- ・小山委員 さらに次期学習指導要領は、実技教科であっても、基礎的・基本的な技能とそれ

の活用による部分が強調されていると思うが、技能の段階的指導について、特に充実度の高い出版社を挙げることは可能か。

- ・山内代表専門委員 実技的などころを意識して作っている会社は挙げなかったが、大日本図書と学研の教科書にそのような面があると思う。

【英語】

- ・斎藤委員 新しい教科だが、その前段階で外国語活動として実施しており、そこからの移行期があり、教科としてスタートした。さらに自由時間等についても徐々に増えている。これまでの学習として、ガイドラインや「We can!」を使いながら、さらにプロジェクターなどを利用し、手探り状態からスタートした。それを踏まえて考えると、各社の教科書は学習指導要領に則った形となっているが、教える側からすると使いやすさや今まで利用していた「We can!」に近いとの話もあり、東京書籍の方が使いやすい等の意見があった。英語については他の教科から比べると、電子黒板やデジタルコンテンツなどを利用している先生方が多い。他の教科書会社にもあるが、そういったデジタル的な使いやすさというところについては、どのように感じたか。
- ・加藤代表専門委員 東京書籍だと、デジタル教科書は今まで使っていた「We can!」に大分近いと聞いたので、先生たちが戸惑うことはないかと思われる。他の教科書会社も見やすく、いろいろな広がりもあり教えやすい。東京書籍だと先生方が助かるという印象はない。
- ・斎藤委員 東京書籍の研究調査の中に、外国語活動からの接続、中学校への橋渡しというような観点が書かれている。接続や連続性で見たとき7社の中で一番意識しているのが東京書籍か。
- ・加藤代表専門委員 どの会社も意識はしている。今までの流れを汲んでいるところが大きかった。
- ・斎藤委員 別冊があるのは、東京書籍だけか。
- ・加藤代表専門委員 東京書籍だけだった。
- ・小山委員 東京書籍だけモジュールを意識した特徴が示されていないのだが。
- ・加藤代表専門委員 東京書籍は、モジュールはいいと思う。
- ・小山委員 そういうレベルでは書かれていないだけで、それほど違いはないということか。
- ・加藤代表専門委員 はい。

【特別の教科 道徳】

- ・小山委員 道徳は、地域とのつながりが比較的重要なと思う。宮城県がよく使われるが、その県ごとに作っているわけではないのだろうが、最も地域のつながりという観点で充実しているのはどこか。
- ・小松代表専門委員 数を具体的に比べたわけではないが、東京書籍が特に扱い方が大きい。
- ・斎藤委員 「特別の教科道徳」は、実際はもう移行期ではなく、教科書としてすでに取り入れられ、授業は進められている。十分に議論できるように、新しい授業スタイル、これからの道徳の授業を推進していく上で、子供たちにとっても、先生方にとっても、十分議論できる形の学習スタイル、問題解決的な学習スタイルを取り入れやすい会社はあるか。

- ・小松代表専門委員 これについては、各社とも力を入れているようだ。どの教科書についても、最初に「ねらい」の明記や「問い」の明記があり、そこで持った疑問について初発問で深め、その後の発問で自分事として捉えて議論できるような構成になっていた。先ほど、小山委員から、地域教材の質問があったが、どの会社についても、最後のところにまとまりで大きく二つ、その発問があり、最初から最後まで教科書だけを扱っても、授業としては成立する。教師側の負担も少ないことと、慣れていくことで子供たちもどのように議論したらよいか、身に付いていくと思う。その点で言えば、どの教科書も大丈夫だ。

(3) 議案第1号 令和2年度使用教科用図書の採択について

- ・小山議長 議案第1号令和2年度使用教科用図書の採択について

まず、小学校からいきたいと思う。教科ごとの検討に入る前に調査研究資料に代表専門員からの報告によって、基本的にどの出版社の教科書も丁寧に作られていて、どこの教科書を採用しても問題はないという確認がとれたとすれば、学校現場の意向を大切にしながら慎重に採択を進めるという、この基本線を確認し合いたいと思うがよろしいか。

- ・皆 はい。

- ・小山議長 それでは、小学校国語から始めたい。

希望については、東書12、光村が7で東書の希望が多い。調査研究資料、本日の聴き取りでもこの2社に限られていたということで、意向を大切にすることからすれば、東書を採用するということがよろしいか。

- ・皆 はい。お願いします。

- ・小山議長 東書とする。

次に、書写。書写も希望は東書が最も多い。本日の聞き取りの調査からも採択を否定するものは、ないと思う。もう一つは国語との関連性ということも考慮に入れても東書ということがよろしいか。

- ・皆 はい。

- ・小山議長：東書とする。

社会に関しても学校希望は、東書が非常に多い。本日の聴き取りでも否定するものは全くなかったということで、東書としてよろしいか。

- ・皆 はい。

- ・小山議長 地図に関しては、東書の方が少し多いという状況。本日の聴き取りに関しても、少なくとも東書を否定するような内容はなかったと判断する。その共通理解でよいか。

- ・皆 はい。

- ・小山議長 だとすれば、希望の数は接近しているが東書を採用するということがよいか。

- ・皆 はい。

- ・小山議長 算数についても東書が非常に多い。今日の聴き取りの内容でも否定することは全くなかった。東書でよいか。

- ・皆 はい

- ・小山議長 理科の学校希望は、すべて東書。今日の聴き取りにおいても否定される内容は全くなかった。東書でよいか。

- ・皆 はい。
- ・小山議長 次は、生活。学校希望としては、東書が非常に多い。本日の内容でも否定される内容はなかったということで東書でよいか。
- ・皆 はい。
- ・小山議長 音楽については、学校希望が教育芸術社のみということだ。本日の調査でも否定されることは何も出ていない。教育芸術社でよいか。
- ・皆 はい。
- ・小山議長 図画工作については、若干開隆堂のほうが希望数が多い。本日の調査でも開隆堂についての否定すべき内容は全く見いだせない。図画工作は開隆堂採択でよいか。
- ・皆 はい。
- ・小山議長 家庭科については、希望としては東京書籍が8校、開隆堂が11校ということで、希望数は接近している。今日の聴き取りの内容は、どちらも工夫されていて否定されるべきものは何も見つかっていない。これについても原則を適用するというのでよいか。であれば、接近はしているが、希望の多い開隆堂を採択するというのでよろしいか。
- ・皆 はい。
- ・小山議長 保健については、学校希望は東書が多い。本日も東書についての否定する内容が全く見いだせていない。東書でよいか。
- ・皆 はい。
- ・小山議長 次は英語。初めての教科書採択になる。これも原則をそのまま適用するというのでよいか。
- ・皆 はい。
- ・小山議長 であれば希望は、東京書籍が多い。本日、否定される内容は全くみつけられなかった。東京書籍を採択するといことのでよろしいか。
- ・皆 はい。
- ・小山議長 次に道徳。東京書籍の希望が多く、否定される調査研究の結果もない。東京書籍でよいか。
- ・皆 はい。
- ・小山議長 以上を小学校の教科書として採択したいと思う。確認をしていただきたい。
- ・斎藤委員 それでは事務局の私の方から確認をさせていただく。
国語：東京書籍、書写：東京書籍、社会：東京書籍、地図：東京書籍、算数：東京書籍、理科：東京書籍、生活：東京書籍、音楽：教育芸術社、図画工作：開隆堂、家庭：開隆堂、保健：東京書籍、英語：東京書籍、道徳：東京書籍 以上。
- ・小山議長 次に特別支援学級用一般図書。調査研究委員から6冊についての採択の資料が提出されている。
- ・斎藤委員 事務局の方から特別支援学級用の教科用図書、いわゆる一般図書について報告する。新しく差し替えになったものについて調査研究をした。それぞれ調査研究したものが記載されており、一般図書については学級等で選ぶのではなく、学級の中の児童生徒の実態や能力において、それぞれの児童生徒に合った一般図書を担任が選ぶという観点である。そのため今回新たに調査研究した一般図書を含め、全ての一般図書について、採択の方向

でご審議をお願いしたい。

・小山議長 新たに採択をするものは、この六つということである。まずこの六つの採択についてお諮りする。全て採択ということではいか。

・皆 はい。

・小山議長 今回は新規の採択の範囲には入れていないが、残った一般図書についてもここで改めて選択を確認するというのではいか。

・皆 はい。

・小山議長 特別支援学級用の採択については、以上ということにする。

中学校は、先ほど配布した資料だ。これは原則論で言えば来年度、採択を全教科にわたって検討するということになるもので、現行の令和元年度使用の教科書を継続するという事務局からの原案ということになる。ご覧いただき、質問等をお願いしたい。

・皆 特になし。

・小山議長 それではこちらについても令和2年度の図書としての採択という確認でよろしいか。

・皆 はい。

・小山議長 中学校の採択は以上。教科用図書の採択に関して更に何かあるか。以上でよろしいか。議案第1号は、以上で協議終了とする。

・皆 はい。

5 その他（令和2年度負担金について）（説明：小野寺）

○ 資料に沿って説明

・小山議長 これで次年度もすすめるということではよろしいか。

○ 了承

・小山議長 その他あるか。

○ 阿部委員 採択協議会で教科書を定める基準の一つに、これをしっかり参酌しなさいという約束事がある。先生方も多忙な中で一生懸命作ってはいるが、ところどころに誤植がある。これを基準に教科書を決定する材料になり、可及的速やかに、それぞれの教育委員会がこれを公開するというにもなれば、来年は中学校になるが、専門委員会にお願いをする際に、しっかりと委員会の4人のメンバーの中でそれぞれ確認し合い、リーダーがまとめ、文言の確認をやっていただいた方がよい。

・小山議長 最後に確認を必ずやることでいいか。

6 閉会挨拶（齊藤副会長）

学期末のお忙しいところありがとうございました。専門委員会の調査研究資料、県の資料、さらには調査研究の代表者の御意見、それから各学校の採択希望を鑑み、そして慎重に審議いただいた。今後とも丁寧に教科書を見ながら質の高い教育をしていきたいと思っております。本日は大変御苦勞様でした。

7 閉会（午後5時50分）

上記記録の正確なるを認め、ここに署名する。

令和元年7月31日

会議録署名委員

齋藤 明